

在籍校で輝けるために ～西尾市早期適応教室の場合～



報告者：指導員 菊池寛子

西尾市って？



西尾市とは

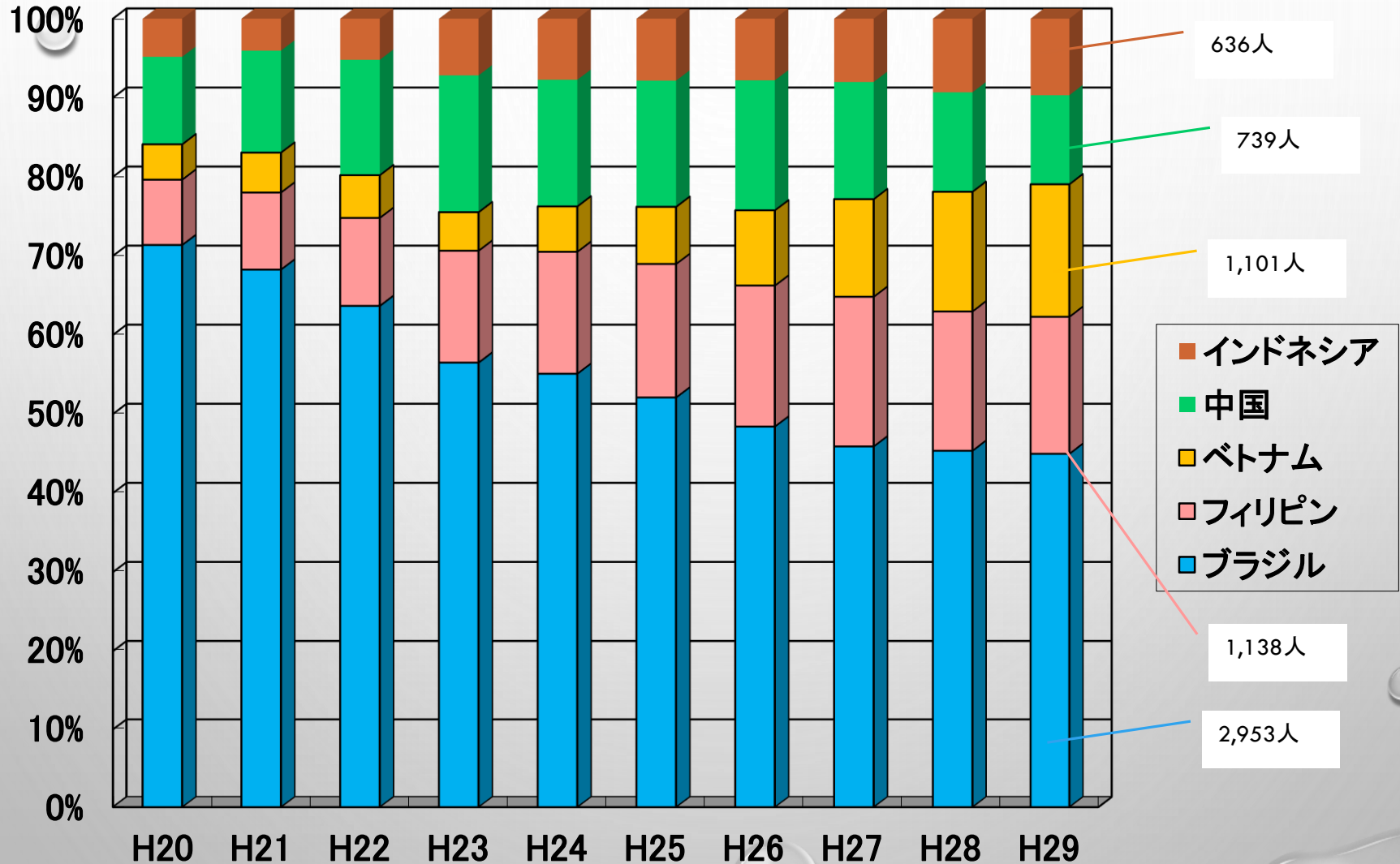
海に面し、山がほとんどなく、(最高峰茶臼山291m)、
自動車関連の中小企業が集積しているところ。

うなぎ。。。全国トップクラスの生産量
抹茶。。。生産全国一

2011(H23)年4月1日西尾市、一色町、吉良町、幡豆町が合併。
2011(H23)年3月1日の西尾市の人口は109,280人
2011(H23)年4月1日の西尾市の人口は169,294人

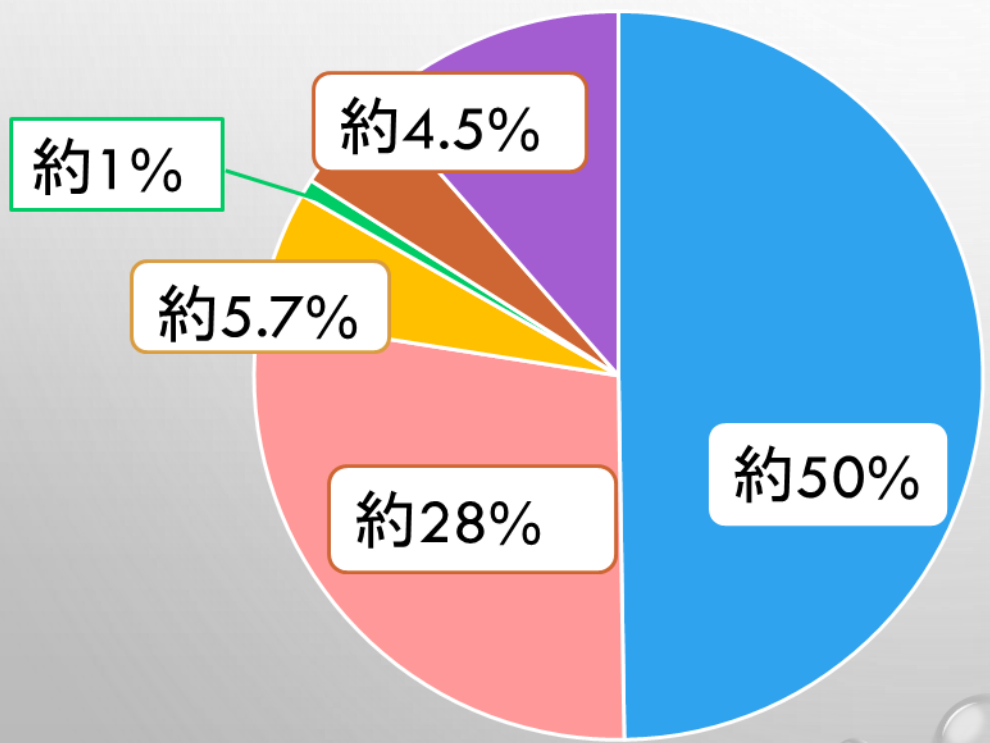
西尾市の人口(2017.4.1)
171,546人うち外国人7,722人 約4.5%が外国人住民

西尾市の外国人住民の推移



西尾市の日本語指導が必要な児童生徒の在籍状況

2017(H29)年5月1日現在 市内総児童生徒数 14,981人
“日本語指導が必要な外国人児童生徒数” 小学校:311人
中学校: 89人



全体の“約2.7%”
全体の約10%在籍
する小学校もあれば
0%の学校もある。

西尾市には

フレスクール

フレクラス = 早期適応教室

不就学支援 (5~18歳)

があります。

早期適応教室の概要

開設年：2009(H21)年開始 児童生徒数7人スタート。

設置者：西尾市教育委員会

対象児童生徒：外国にルーツを持つ西尾市内在住小中学生

在籍の有無：在籍してから通室開始

設置場所：西尾市立鶴城小学校内(1室)

交通手段：基本保護者による送迎、

保護者の責任のもとで本人のみによる通室も可

指導者数：2名(一人は補助)

内訳(ポルトガル語理解者、中国語話者)

早期適応教室 入室手続き

1.市教委学校教育課で公立学校編入手続き

在籍学校決定、早期適応教室の説明

→早期適応教室通室意思確認

2.在籍学校で編入手続き

3.早期適応教室で親子面談(1～2時間、在籍校にて)

4.在籍学校1日体験

5.早期適応教室通室開始(約3ヶ月)

早期適応教室 指導内容

期間: 3か月、週1回在籍校へ

形態: 集団を基本

計算は能力別

1. 生活適応
2. 日本語指導
3. 教科指導

	月	火	水	木	金
朝の会(宿題チェック)					
1	本読み／文字／計算				
2	国	国	国	国	国
3	算	算	算	算	算
4	国	国	国	国	国
給食					
掃除					
5	社／理／音／図／総				
帰りの会					

早期適応教室を“通過”した児童生徒

- H21年5月7日～7月17日 7名・・・小1(2名)、小4(2名)、中1(1名)、中2(1名)、中3(1名)
- H21年9月2日～12月7日 7名・・・小1(1名)、小3(1名)、小5(1名)、小6(2名)、中3(2名)
- H22年1月8日～3月23日 4名・・・小2(1名)、小3(1名)、中3(2名)
- H22年4月7日～7月14日 11名・・・小学1年(2名)、小学2年(2名)、小学3年(3名)、小学5年(3名)、中学2年(1名)
-
-
-
- H29年4月7日～7月7日 41名・・・小1(16名)、小2(3名)、小3(2名)、小4(4名)、小5(6名)、小6(5名)、中1(3名)、中2(2名)
(ブラジル:23人、フィリピン10人、ペルー4人、ベトナム2名、中国1名、インドネシア1名)

在籍校との情報共有、連携

- ・月末に「出欠及び様子」を各学校へメールにて送信
- ・毎月20日前後に翌月の原学級復帰日を相談・調整
- ・気になる子については適宜連絡を取る
- ・週1の原学級復帰日には自習教材を持たせたり、各学校へ事前に渡す⇒現状を把握してもらう。
- ・修了時も学習が継続できるように、指導内容をまとめたものを送り、教材も本人または学校に渡す⇒引き継ぎをスムーズにするため。
- ・公開授業日の設定
- ・修了後、不定期に修了生を訪問
- ・不就学支援(放課後学習支援)や地域の日本語教室とも連携

模索の中で生まれてきたこと。。。

- まずは在籍校で一日過ごして、翌日から早期適応教室に通室開始。
- 担任や日本語担当と直にやりとりができる
- 行事だけでなく、普通授業も1ヶ月に1度以上在籍校で体験する。
- 修了後も学校訪問に同伴して定期的に各児童生徒を訪問
- ボランティアの受け入れ
- 中学生の職場体験、中学3年生の社会貢献活動の受け入れ
- 修了生に“先輩としての話”をしてもらう
- 臨床心理士と連携

成果と課題

- 3か月通して母国と日本の学校文化の違いを理解し、前向きに取り組めるようになって修了しているので、各在籍校と頑張ることができる。
- 担任、日本語担当、クラスメイトは少しずつ関係を作っていくことができる。
 - × 早期適応教室修了後、在籍校へ通えない児童生徒が時々いる。
- 早期適応教室⇔担当者、早期適応教室⇔担任と連絡が取れていても、校内で情報共有ができていないことが多い。
- 在籍校内でのコンセンサス&見通しをもった指導計画が課題だ。